

香川労働局発表
平成 28 年 5 月 31 日(火)
午前 8:30 解禁

1. 労働市場

(1) 概況 有効求人倍率 1.61 倍(前月より 0.12 ポイント上昇) 全国 6 位

4 月の香川県の有効求人倍率(季節調整値で前月比)は、1.61 倍(全国 6 位)と前月より 0.12 ポイント上昇した。平成 23 年 8 月以降、57 か月連続で 1 倍台となっている。

新規求人(原数値で前年同月比)は、増加した産業は、建設業、卸売業、小売業、宿泊業、飲食サービス業等で増加し、製造業、サービス業、公務等で減少となり、全体で 10.5% 増と 9 か月連続で増加した。有効求人は、11.4% 増と 8 か月連続で増加した。

新規求職(原数値で前年同月比)は、11.7% 減と 14 か月連続で減少、有効求職は 5.9% 減と 38 か月連続で減少した。

公共職業安定所別の有効求人倍率(原数値)は、高松 1.46 倍、丸亀 1.38 倍、坂出 1.67 倍、観音寺 1.81 倍、さぬき 1.28 倍、土庄 1.60 倍となった。

正社員の有効求人倍率(原数値で前年同月比)は、1.03 倍と 0.16 ポイント上昇した。正社員の新規求人は 14.5% 増、非正社員の新規求人は 7.1% 増となったことから、新規求人に占める正社員求人の割合は 47.3% と前年同月より 1.7 ポイント上昇した。

このことから、香川県の雇用情勢判断を「改善している」とした。

○ 有効求人倍率の推移(季節調整値)

	27 年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	28 年 1 月	2 月	3 月	4 月
香川県	1.36	1.38	1.38	1.38	1.42	1.47	1.49	1.51	1.54	1.54	1.51	1.49	1.61
四国	1.16	1.18	1.18	1.20	1.22	1.25	1.26	1.28	1.29	1.31	1.30	1.32	1.37
全国	1.17	1.18	1.19	1.21	1.22	1.23	1.24	1.26	1.27	1.28	1.28	1.30	1.34

(注)1. 新規学卒者を除き、パートタイムを含む全数。 2. 平成 27 年 12 月以前の数値は、新季節指数により改訂。

(2) 正社員の職業紹介状況 有効求人倍率 1.03 倍(前年同月を 0.16 ポイント上回る)

正社員の有効求人倍率は 1.03 倍となり、前年同月を 0.16 ポイント上回った。

38 か月間連続して前年同月を上回った(同率の月を含む)。

項 目	年 月			前年同月比、差 (%、ポイント)
	28 年 3 月	28 年 4 月	27 年 4 月	
正社員新規求人数 (人)	4,049	4,807	4,200	14.5
正社員有効求人数 (人)	12,257	11,975	10,813	10.7
正社員就職件数 (件)	959	838	903	▲7.2
常用フルタイム有効求職者数 (人)	11,845	11,597	12,416	▲6.6
正社員有効求人倍率 (倍)	1.03	1.03	0.87	0.16
充足率 (%)	23.7	17.4	21.5	▲4.1

(注)1. 正社員有効求人倍率=正社員有効求人数/常用フルタイム有効求職者数(なお、常用フルタイム有効求職者にはフルタイムの派遣労働者や契約社員を希望する者も含まれているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる)

2. 充足率=正社員就職件数/正社員新規求人数×100

(3) 求人動向

新規求人数 10,169人 (前年同月比 10.5%増加)

パートを含む新規求人(原数値)は、前年同月比 10.5%増と 9 か月連続で増加した。産業別では、建設業(55.0%増)、製造業(12.7%減)、情報通信業(40.9%減)、運輸業、郵便業(30.4%増)、卸売業、小売業(42.0%増)、宿泊業、飲食サービス業(89.8%増)、生活関連サービス業、娯楽業(27.6%増)、医療、福祉(5.5%減)、サービス業(17.2%減)となった。

○産業別新規求人数の前年同月比の推移

(%)

産 業	27年11月	12月	28年1月	2月	3月	4月
建設業	20.7	2.3	64.8	18.9	7.1	55.0
製造業	23.8	43.9	1.6	13.2	16.9	▲12.7
食料品	31.7	24.1	▲3.2	20.1	15.4	5.0
繊維工業	28.6	97.1	▲20.9	38.8	153.1	▲15.7
パルプ・紙加工品	▲3.6	32.8	▲22.2	155.6	66.7	0.0
印刷・同関連	0.0	25.8	120.7	65.7	11.6	29.2
プラスチック製品	95.7	▲12.5	87.2	78.3	▲25.0	▲2.3
金属製品	7.9	2.8	▲18.3	4.5	▲19.3	▲46.5
はん用機械器具	▲8.8	54.3	▲24.4	▲9.8	41.5	▲50.0
生産用機械器具	22.9	56.0	17.9	▲45.5	77.4	▲35.3
電子部品・デバイス・電子回路	550.0	112.5	▲21.7	1400.0	17.6	▲58.3
電気機械器具	50.0	194.0	15.1	▲27.4	▲13.5	81.8
輸送用機械器具	▲20.0	62.4	0.0	▲2.8	42.4	▲38.2
情報通信業	▲35.4	55.2	▲37.6	27.6	27.5	▲40.9
運輸業、郵便業	41.7	3.5	4.2	6.7	3.3	30.4
卸売業、小売業	4.6	19.4	20.1	1.4	19.4	42.0
卸売業	2.8	0.4	5.4	▲11.3	13.6	38.8
小売業	5.3	28.1	27.2	7.5	21.7	43.4
宿泊業、飲食サービス業	27.1	2.2	11.1	37.7	4.8	89.8
生活関連サービス業、娯楽業	13.0	14.4	23.8	▲7.6	▲6.5	27.6
医療、福祉	12.7	▲4.8	▲6.5	14.0	3.8	▲5.5
医療業	21.6	▲0.5	▲4.5	17.7	6.0	▲4.8
社会保険・福祉・介護	7.2	▲8.2	▲9.1	13.3	2.1	▲6.4
サービス業(他に分類されないもの)	21.4	11.6	14.6	▲2.7	▲4.7	▲17.2
産 業 計	14.6	12.7	5.7	14.2	7.4	10.5

(注) パートタイムを含む全数。平成19年11月改定の「日本標準産業分類」に基づく区分により表章したもの。

- 建設業 土木建築工事業の事業所から、元請大手が展開する全国の就労現場について、各現場の求人を受理。
- 製造業 輸送用機械器具製造業で大幅減となり、金属製品、機械器具でも減少している。
- 情報通信業 昨年度は、ソフトウェア業の事業所8名、交通量調査の事業所20名があったが、今年度これが減少した。
- 運輸業、郵便業 貨物運送業で大幅に増加、ドライバーの人手不足感から求人数の増加、また、新たにドライバーを募集する中小規模の求人者が大幅に増加している。
- 卸売業、小売業 個人消費の回復、また、瀬戸内国際芸術祭等もあり、卸売業、小売業ともに増加。
- 宿泊業、飲食サービス業 その他の事業サービス業から飲食店に業種変更となった事業所から、多数の求人を受理。
- 生活関連サービス業、娯楽業 洗濯業の事業所、遊技業の事業所、宿泊客増加に対応した、遊園地施設等で増加。
- 医療、福祉 前月まで、2か月連続で増加した反動もみられる。更新時期のズレによるものが散見される。引き続き人手不足の状況が続いている。
- サービス業 その他の事業サービス業から飲食店に業種変更となった事業所があったことにより、減少した。

(4) 求職の動向

新規求職者数 5,378 人 (前年同月比 11.7%減少)

パートを含む新規求職者(原数値)は、前年同月比 11.7%減と 14 か月連続で減少した。うち一般求職者は 12.9%減と 2 か月連続で減少、パート求職者は 9.9%減と 6 か月連続で減少した。

○職業別常用有効求人倍率

(倍)

専 門 ・ 技 術 的 職 業	1.89
事 務 的 職 業	0.44
販 売 の 職 業	1.79
サ - ビ ス の 職 業	2.85
生 産 工 程 の 職 業	1.69
輸 送 ・ 機 械 運 転 の 職 業	2.42
建 設 ・ 採 掘 の 職 業	4.87
運 搬 ・ 清 掃 ・ 包 装 等 の 職 業	0.92

(注)1. 各職業は、雇用期間 4 か月未満の臨時、季節を除きパートを含む常用の原数値。

2. 職業分類は平成 24 年 3 月から改定された。

※ 職業別の求人・求職の状況について詳しくは、香川労働局ホームページの「事例・統計情報」欄掲載の「労働市場情報」をご覧ください。

(<http://kagawa-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/home.html>)

[年齢別の動き]

パートを除く常用新規求職者は前年同月比 12.7%減と 2 か月連続で減少した。常用有効求職者は 6.6%減と 38 か月連続して減少した。

○年齢別常用求職者の前年同月比の推移

(%)

		年 齢 計	24 歳以下	25～34 歳	35～44 歳	45～54 歳	55 歳以上
常用 新規 求職	27 年 12 月	▲2.0	▲15.6	▲4.9	▲2.4	7.6	7.0
	28 年 1 月	▲9.4	▲8.9	▲17.3	▲4.9	▲4.6	▲7.8
	2 月	0.7	▲8.0	▲1.3	5.8	▲1.6	6.2
	3 月	▲5.8	▲9.3	▲7.7	▲10.7	6.2	▲3.5
	4 月	▲12.7	▲18.9	▲12.6	▲14.7	▲17.0	▲1.4
常用 有効 求職	27 年 12 月	▲5.2	▲9.3	▲7.8	▲2.1	▲5.0	▲3.1
	28 年 1 月	▲6.3	▲13.7	▲9.4	▲2.3	▲5.4	▲3.1
	2 月	▲3.4	▲9.6	▲7.0	1.3	▲3.2	▲0.5
	3 月	▲4.0	▲8.8	▲7.0	▲1.5	▲0.9	▲2.7
	4 月	▲6.6	▲12.8	▲7.8	▲6.7	▲4.1	▲3.2

(注)雇用期間 4 か月未満の臨時・季節及びパートを除く、常用。

[求職理由別の動き]

パートを除く常用新規求職者のうち、在職者は前年同月比 17.6%減と 2 か月連続で減少、離職者は 11.1%減と 39 か月連続して減少した。うち事業主都合離職者は 17.6%減と 3 か月連続で減少、自己都合離職者は 8.8%減と 4 か月連続で減少した。無業者は 10.8%減と 4 か月連続で減少した。

○求職理由別常用新規求職者の前年同月比

(%)

		年 齢 計	24 歳以下	25～34 歳	35～44 歳	45～54 歳	55 歳以上
計		▲12.7	▲18.9	▲12.6	▲14.7	▲17.0	▲1.4
求 職 理 由	在 職 者	▲17.6	▲14.1	▲16.3	▲21.3	▲27.3	9.7
	離 職 者	▲11.1	▲29.9	▲8.3	▲11.6	▲12.6	▲3.6
	事業主都合	▲17.6	▲33.3	▲23.6	▲23.4	▲17.3	▲6.5
	自己都合	▲8.8	▲28.9	▲4.0	▲7.5	▲7.8	▲1.3
	無 業 者	▲10.8	▲2.2	▲34.3	▲16.2	▲16.0	23.8

(注)雇用期間 4 か月未満の臨時・季節及びパートを除く、常用。

(5) 就職の動向 就職件数 1,904 件(前年同月比 6.3%減少)

パートを含む就職件数は、前年同月比 6.3%減と 2 か月ぶりに減少した。うち一般は 9.1%減と 5 か月連続で減少、パートは 2.2%減と 3 か月ぶりに減少した。

パートを含む新規就職率は 35.4%で、前年同月比 2.1 ポイント上回った。

○就職件数の前年同月比 (%)

	全 数	一 般	44 歳以下		パート
			44 歳以下	45 歳以上	
27 年 12 月	▲5.2	▲6.0	▲7.1	▲3.1	▲4.0
28 年 1 月	▲14.0	▲8.8	▲13.5	2.6	▲21.0
2 月	▲1.3	▲4.7	▲7.6	1.9	5.2
3 月	1.7	▲3.5	▲2.6	▲5.3	10.5
4 月	▲6.3	▲9.1	▲12.5	▲0.8	▲2.2

(6) 雇用保険関係 受給者実人員 3,196 人(前年同月比 10.1%減少)

[受給者実人員の動き]

受給者実人員は、前年同月比 10.1%減と 35 か月連続して減少した。全ての年齢区分で減少した。

○年齢別受給者実人員 (人、%)

	受給者実人員	前年同月比
年 齢 計	3,196	▲10.1
29 歳以下	471	▲14.1
30～44 歳	998	▲5.0
45～59 歳	1,014	▲12.4
60 歳以上	713	▲10.8
44 歳以下	1,469	▲8.1
45 歳以上	1,727	▲11.8

[事業主都合解雇者の動き]

事業主都合解雇者数は、前年同月比 24.0%減と 2 か月ぶりに減少した。

建設業は 2 か月ぶりに増加、製造業は 2 か月ぶりに減少、運輸、郵便業は 3 か月ぶりに減少、卸売・小売業は 2 か月ぶりに減少、宿泊、飲食サービス業は 4 か月連続で減少、医療、福祉は 2 か月連続で増加、サービス業は 2 か月ぶりに減少した。

○産業別事業主都合解雇者 (人、%)

	解雇者数	前年同月比
産 業 計	520	▲24.0
建設業	47	80.8
製造業	125	▲49.6
運輸、郵便業	10	▲73.7
卸売、小売業	70	▲24.7
宿泊、飲食サービス業	15	▲25.0
医療、福祉	47	27.0
サービス業	37	▲30.2

(注) 1. 「高年齢+特例」被保険者を含む。

2. 平成 19 年 11 月改定の「日本標準産業分類」を平成 21 年 4 月より適用、集計したもの。

2. 経済情勢（2016年5月16日 日本銀行高松支店「香川県金融経済概況」より抜粋）

概況

- 香川県内の景気は、緩やかな回復を続けている。
すなわち、個人消費は持ち直している。設備投資は底堅く推移している。住宅投資は振れを伴いつつも、横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は高めの水準ながら減少傾向にある。こうした中、企業の生産動向は横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得情勢をみると、労働需給は着実な改善を続けており、雇用者所得も緩やかに持ち直している。

実体経済

- 最終需要の動向をみると、以下のとおり。
 - 設備投資は、底堅く推移している。
3月短観における設備投資（全産業）をみると、2015年度は前年を下回る見込みとなっている。2016年度は、現時点では、前年を幾分下回る計画となっている。
 - 個人消費は、持ち直している。
大型小売店の売上は、持ち直している。
乗用車の新車登録台数は、足もと弱めの動きがみられているが、基調的には底堅く推移している。
家電販売は、底堅く推移している。
旅行取扱額は、海外情勢への懸念などから海外旅行が弱めの動きとなっているものの、国内旅行の堅調さに支えられて、全体としては底堅く推移している。
 - 住宅投資は、振れを伴いつつも、横ばい圏内の動きとなっている。
 - 公共投資は、高めの水準ながら減少傾向にある。
- 企業の生産動向は、横ばい圏内の動きとなっている。
電気機械は、緩やかに増加している。金属製品は、持ち直している。はん用・生産用機械は、高水準で横ばい圏内の動きとなっている。化学は、堅調に推移している。輸送機械は、高操業が続いている。食料品は、足もと減少しているが、基調的には底堅く推移している。窯業・土石は、底堅く推移している。非鉄金属、プラスチック製品は、横ばい圏内の動きとなっている。
- 主要観光地の入込客数は、前年をやや上回っている。
- 雇用・所得情勢をみると、労働需給は着実な改善を続けており、雇用者所得も緩やかに持ち直している。
- 消費者物価（除く生鮮食品）は、概ね前年並みとなっている。